

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

企画研究プロジェクトⅠ(教員・学生参加型) 2023年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	福祉学科・2年	中村理加
指導教員	所属・職名	氏名
	福祉学科・准教授	掛川直之
研究課題	出所者支援マップの作成を通じて出所者を排除しない福祉コミュニティをデザインする	
研究年度	2023年度	
プロジェクト 分担者	和田夏海、棚本なつき、宮崎愛花音、濱地美杏、折原歩、綿ゆづき、矢島葉菜、井本咲子、桜庭未羽、クチュエリム、樋渡美優、堀越真帆、山本明佳、村中志保	

プロジェクトの内容及び成果の概要

1. 本プロジェクトの内容

本プロジェクトでは、刑務所等出所者支援の専門機関である、埼玉県地域生活定着支援センターと私たちコミュニティ福祉学部福祉学科の本プロジェクトメンバーとが協働して、主に、これまで埼玉県地域生活定着支援センターが支援を担当してきた出所者を受け入れてきた福祉事業所を訪問し、インタビュー調査を行ってきた。そして、インタビュー調査の結果得ることができた回答を整理・比較し、各福祉事業所の共通点と相違点を明らかにすることを目指してきた。

このインタビュー調査では、福祉事業所の概要や事業内容・取り組みなどの基本的な情報に加えて、福祉事業所で働く上で大切にしていること、苦勞したこと、やりがいなど、職員それぞれの思いについてもうかがった。また、各福祉事業所が出所者を受け入れた経緯や、刑務所等出所者を受け入れたことによって変化したこと、変化しなかったことについてもうかがうことができた。くわえて、福祉事業所の方のご厚意により、施設見学もさせていただいたことで、福祉事業所の事業内容について理解を深めることができた。

さらに、本プロジェクトの今年度の集大成として、出所者への支援が盛んに行われている大阪に調査に赴き先端的な支援のあり方を学ぶことができた。大阪では民間団体が出所者への支援をどのように行っているのか、ということについての調査も行った。

2. 本プロジェクトの成果

今年度は埼玉県内にある3つの事業所を訪問し、インタビュー調査を行った。インタビュー調査を行ったことにより、ニーズがある一方で、イメージが先行してしまい、出所者を受け入れる体制が整いにくい傾向があるということがわかった。

実際に事業所を訪問させていただき、見学させていただいたことで事業所ごとに支援の行い方にはかなり特徴があるということがわかってきた。しかし、出所者を受け入れている福祉事業所は支援の対象者が出所者であるということではなく、支援を必要としている人であることを重視しているという共通点を持っていた。

支援の対象者一人ひとりが抱える個別のニーズに合わせて支援を行うことによって、その人自身が自分を見つめ直す機会を増やすことにつながるのではないかと考えられる。この支援方法は、再犯を防ぐということにもつながっているのではないかと考えている。

本プロジェクトでは、出所者に対して埼玉県内にある福祉事業所ではどのような支援が行われているのかということを知りたいという課題についても見えてきた。また、地域生活定着支援センターがさまざまな福祉事業所とどのように連携し、地域での生活の支援を行っているのかということについても理解を深めることができた。しかし、圧倒的に訪問件数が少ないため、今後本研究を深めていくためには、次年度以降、より多くの福祉事業所を訪問し、インタビュー調査を行うことが必要であると考えている。